

京都府城陽市

■調査項目

梅の郷青谷整備計画について

・調査対応者

城陽市議会 相原 佳代子 議長

城陽市議会 土居 一豊 副議長

・調査期日

平成28年7月11日(月) 午後1時～午後3時

・城陽市の概要

人口：80,037人

世帯数：33,928世帯

・調査目的

地域活性化、6次産業化の参考とするため。

・調査内容

【城陽市からの説明】

施策のポイントとして、地元住民や市民を中心にボランティアによる3つの部会活動が継続的に展開され、平均して1、2か月に1回の会合、事業活動、イベント等を実施し、参加者の輪を広げながら部会ごと地域活性化に向けた目標を推進されていた。

取り組みに至る背景・目的については、平成21年6月に策定した城陽市観光振興計画の重点施策である「梅の郷青谷づくり」の実現及び平成24年3月に策定した梅の郷青谷整備計画推進のため、府の緊急雇用対策事業補助金を活用して青谷梅林の復興に向けた取組や、地域内を有機的に結ぶ散策道整備、里山環境づくり、青谷梅林の梅加工製品や新たな特産品開発に取り組む組織を設置し、活動を支援されていた。

現在までの実績や成果については①荒廃竹林における竹伐採と竹炭づくりをすすめながら、竹伐採により拡張した広場に竹製ベンチを設置して見晴らし台として開放している。②平成23年度に散策道として小道を整備し、天山散策道整備も進めた。③梅加工品として梅ソフト、梅シャーベット、白玉小梅、梅クッキーなどの特産品を開発した。

【質疑応答】

- ・導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

地元の理解と参加を促進するため部会の具体的な活動に関して取り組んでいる内容を紹介し、協議する場として年2回程度のワークショップを開き、地元自治会の関係者にも参加をよびかけ質疑応答などを通じて理解を深めるとともに、広報チラシを発行し自治会等を通じて広く配布などを行った。

・今後の課題について

部会活動はボランティアによって実施しているが、ボランティアへの連絡調整機能をはたすため事務所やスタッフの確保が必要である。観光協会に委託してきた経費を継続して確保する必要がある。

【呉市での展開の可能性】

具体的な問題は地域性もあり実施は難しいが、地域活性化、6次産業化を進めるうえでの方法としての参考となった。

京都府亀岡市

■調査項目

セーフコミュニティの取り組みについて

・調査対応者

亀岡市議会 西口 純生 議長

・調査期日

平成28年7月12日(火) 午前10時～12時

・亀岡市の概要

人口：92,399人

世帯数：37,299世帯

・調査目的

セーフコミュニティを調査するため。

・調査内容

【亀岡市からの説明】

セーフコミュニティとは、事故やけがは偶然に起こるのではなく、予防できるという理念のもと、行政と地域住民など多くの主体の協働により、すべての人たちが安心して安全に暮らすことができるまちづくりを進めるもの。WHO（世界保健機関）が「世界中の人を健康に」という取り組みを進める中で、日々の生活において「安全」が健康に大きな影響を与えることに着目したのが始まりになっている。スウェーデンの小さなまちの試みをモデルとして、地域の誰もがいつまでも安全に暮らせるまちをつくろうという取り組みになったのが「セーフコミュニティ」です。高齢者の店頭を防止するための「健康づくり体操」、市民の手で子供を守る「子ども110番のいえ」や「子ども・地域安全見守り隊」、地域を災害から守る「自主防災組織活動」などは、セーフコミュニティ活動につながる活動になっている。

セーフティプロモーション（人々が平穏に暮らせるようにするため、事故や暴力、その結果としての外傷や死亡を、協働で、科学的に評価可能な手法により予防しようという取り組み）に取り組む地域をWHOCC（WHOセーフコミュニティ協働センター）がセーフコミュニティとして認証する。WHOCCでは、認証のための6つの指標を定め、この指標を満たしているかを申請書と現地審査により確認を行い認証する。認証は、事故やケガが減少したかどうかを見るのではなく、地域住民、行政、企業など様々な主体が連携・協働し、安全な地域づくりに取り組む状況になっていることにより与えられる。亀岡市は平成20年3月

1日に認証をうけ、特徴として、住民による地域おこし「地域力」の向上や地域コミュニティの醸成を図っていく継起的活動として取り組みを推進している。

【質疑応答】

・セーフコミュニティ活動による効果は

セーフコミュニティ活動に取り組んで以降の外傷状況は、おおむね減少傾向を示しており、外相予防活動・安全安心なまちづくり活動による効果が推察できる。アンケート調査で、地域福祉の向上や安全意識の醸成につながっている。

・今後の課題は

分析した外傷データの地域活動への効果的な反映策が今後の活動の基点と考えている

・セーフコミュニティ活動に対する京都府の支援は

①子ども・地域の安心・安全活動支援事業、②京都府地域力再生プロジェクト支援事業、③府民公募型安心・安全整備事業などがある。

【呉市での展開の可能性】

健康づくり体操、子ども110番、防犯パトロール、自主防災組織活動など既に取り組んでいる事業もあり、やる気があれば実現できる事業だと考えられる。地域住民、行政、企業など様々な主体が連携・協働し、安全な地域づくりに取り組む契機になればと考える。